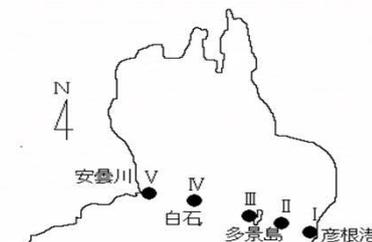


琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年5月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年5月15日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

調査結果

平均値 … 5地点の平均値

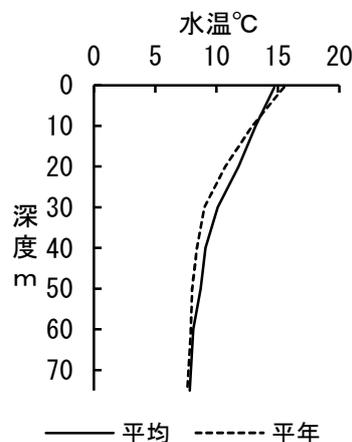
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 5月平均値 5.6m 平年値 5.2m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	5月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	14.7	15.5	-0.8
10	13.2	12.9	+0.3
20	11.8	10.7	+1.1
30	10.1	9.0	+1.1
40	9.1	8.4	+0.7
50	8.7	8.0	+0.7
60	8.1	7.9	+0.2
75	7.8	7.6	+0.2



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
4月下旬	13.6	12.7	+0.9
5月上旬	15.0	14.3	+0.7
5月中旬	17.0	15.5	+1.5

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	5月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	39.2	21.5	+17.7
10~20	12.2	6.2	+6.0
20~40	6.4	2.1	+4.3
40~75	2.9	0.8	+2.1

(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

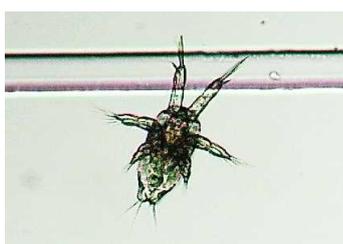
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、全ての地点で*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)が細胞数でも量的にも最も多く認められた。

動物プランクトンは全ての地点で*Eodiaptomus japonicus*(ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生が個体数密度で最も多く認められた。



Fragilaria crotonensis



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。ただし平年値(参考値)はウインクラ法による測定値。

深度 (m)	5月平均値		平年値(参考値)		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.1	109.9	11.0	114.2	0.1	(-4.3)
10	11.2	106.3	11.1	109.0	0.1	(-2.7)
20	10.7	98.5	10.7	98.7	0.0	(-0.2)
30	10.4	92.2	10.4	94.2	0.0	(-2.0)
75	9.2	77.3	9.2	79.7	0.0	(-2.4)